

2006年9月3日 東北大大会 (宮城県仙台市)

家族で気楽にリゾート気分。
観光地施設・展望リフト・そ
してオリエンテーリング。待
望のトレインだった。

・・・が、クマったコトが
ひとつあった。

待望のニュートレイン

東北大大会は仙台市近郊では待望の
ニュートレインで行われました。私が
学生時代にも候補に上げられた泉ヶ岳
山麓です。泉ヶ岳は仙台市を一望でき
るスキー場として市民に人気のある場
所で、もちろんそれ以外の季節も家族
連れで賑わうところです。

新しい地図は「泉ヶ岳」。その中の使
い勝手が良い2箇所のエリアを午前と
午後のミドルディスタンス2レースに
分けて使用されました。ちなみに上
(北)半分の地図名は「白ヶ丘」、下(南)
半分の地図名は「水山」となってい
ました。トレインは要綱に書かれてい
たとおりの素晴らしいものでした。南
向きの片斜面を基調に様々な地形が混
合され、複雑な微地形も見られ走行可
能度も高く、地図もよく調査された様
子が窺えるものでしたし、コースもテ
レインの特性を良く生かしたものでし
た。実際に私もレース中には、ヨーロ
ッパの森を走っているような感じを受
けました。



O-map「白ヶ丘」

それから、フィニッシュの設定につ
いても新鮮でした。フィニッシュは午
前も午後もトレインの中央部に置かれ、
フィニッシュから会場に戻るときの誘
導が競技中のルートにかなり近接して
いました。フィニッシュは数人の役員
とフィニッシュ用のEMITのユニットが
置いてあるだけ、まるで練習会場のよ
うな設定です。これは会場が競技エリア
から離れていたため、会場をフィニッ
シュにすることは現実的ではないため、
フィニッシュにビジュアル性を求める
必要はなく、より競技性を高められる
場所に設定したのでしょう。そのため
にコースは質の高いものになっていま
した。参加者の反応も概ね良好だった
ようです。

一つ残念なことを挙げれば、このテ
レインは熊の生息地になっていること
です。競技中、学生役員がトレイン内
の道路に何人も出ていました。確認し
ていないのですが、熊が出没するこ
とを想定してトレイン内に役員を多く
配置したのではないのでしょうか。実
はレース中も本当に熊が出没し、テ
レインの一部を閉鎖、いくつかのクラ
スは不成立になってしまいました。

家族で参加

ところで今回、私は9ヶ月の子供を
連れて家族で参加しました。両親と兄
の家族も含めて9人で会場に行きま
した。会場がスキー場の一部で、観光
用の施設もあるし、リフトで展望台に
も上がれる、競技に参加しなくても遊
べる場所だったので非常に助かりま
した。

それから、妻がベビーカーで子ども
とグループの部に参加しました。もち
ろん、全部まわれることは期待してい
なかったのですが、子どもは森(の端
っこ)に入れたことに大喜びだったよ
うです。このときの地図がかなり気
に入ったようで、今でも大切に？扱っ
てくれています。

近年は2世の活躍が話題に上がるよ
うになって来ました。それでもさすが
に子育ての時期は遠征に出かける機
会は減ってしまいます。子どもが出来
たことで競技から離れてしまう人も少
くないのではないのでしょうか。いくら
託児所があっても、会場が子どもにと

って滞在しにくい場所だったら、連れ
て行くのはためらってしまいます。子
どもが小さすぎたらどうしようもない
のですが、物心つく頃の子どもには、
オリエンテーリングを体験できるよ
うな場所があると良いかと思いました。

最近はキッズOも行われることが多
いですが、もっと対象年齢が低いもの
です。例えば、会場の一部を回るよ
うにストリーマで誘導を付けておいて、
ところどころにコントロールを置いて
おく。親と一緒に回ってあげれば安心
してオリエンテーリングを体験するこ
とが出来ます。北欧ではボランティア
と一緒に、子どもたちにとっては
はかなり本格的と思われるコースに挑
戦している姿を見たことがある人もい
ますよね。ああいうのを見ると、羨ま
しくってしまいます。

以上のことはたまたま東北大大会
の会場で感じたことであって、必ずしも
学生の大会でこうあって欲しいと希望
するものではありません。ただ、その
ように子どもたちや、障害のある方に
普通に配慮できる大会が増えて欲しい
と思います。

こう書くとまるで、主催者の負担が
増えそうだと思うかもしれませんが、大
会の際は主催者と参加者が一緒にな
って築いて行くものです。主催者は参
加者に場を与えるもの、参加者は与え
られた場で楽しむもの、という考えにと
らわれずに、東北大の学生の皆さんに
は、柔軟に対応できる資質を、大会運
営を通じて育てて欲しいと思います。
これが卒業生として後輩たちにと
お願いしたい唯一のことです。

今回は素晴らしい大会をありがとう
ございました。また来年も期待してい
ます。

(安齋秀樹)